

平成18年3月期 決算説明資料



Listed Company 6488



平成18年3月期 決算概要

平成18年3月期の総括



売上高は中国の不振といったマイナス面はありましたが、堅調な民間設備投資の影響と積極的な提案型営業の推進により増収となりました。

損益面では、原油や素材の高騰といったマイナス面はありましたが、限界低減や生産効率化に加え、タイの生産子会社を始めとする関係会社が順調に推移し増益となり、経常利益、当期純利益共に過去最高益を計上いたしました。

平成18年3月期の連結貸借対照表



(単位:千円)

	前期	今期	増減額
流動資産	3,464,233	4,127,102	662,869
有形固定資産	1,693,512	1,707,559	14,046
無形固定資産	10,244	10,028	216
投資その他資産	2,707,498	2,256,790	450,708
固定資産	4,411,256	3,974,378	436,878
資産合計	7,875,489	8,101,480	225,991
流動負債	1,319,200	1,123,097	196,102
固定負債	422,296	419,660	2,635
負債合計	1,741,497	1,542,758	198,738
資本合計	6,133,992	6,558,721	424,729
負債、少数株主持分 及び資本合計	7,875,489	8,101,480	225,991

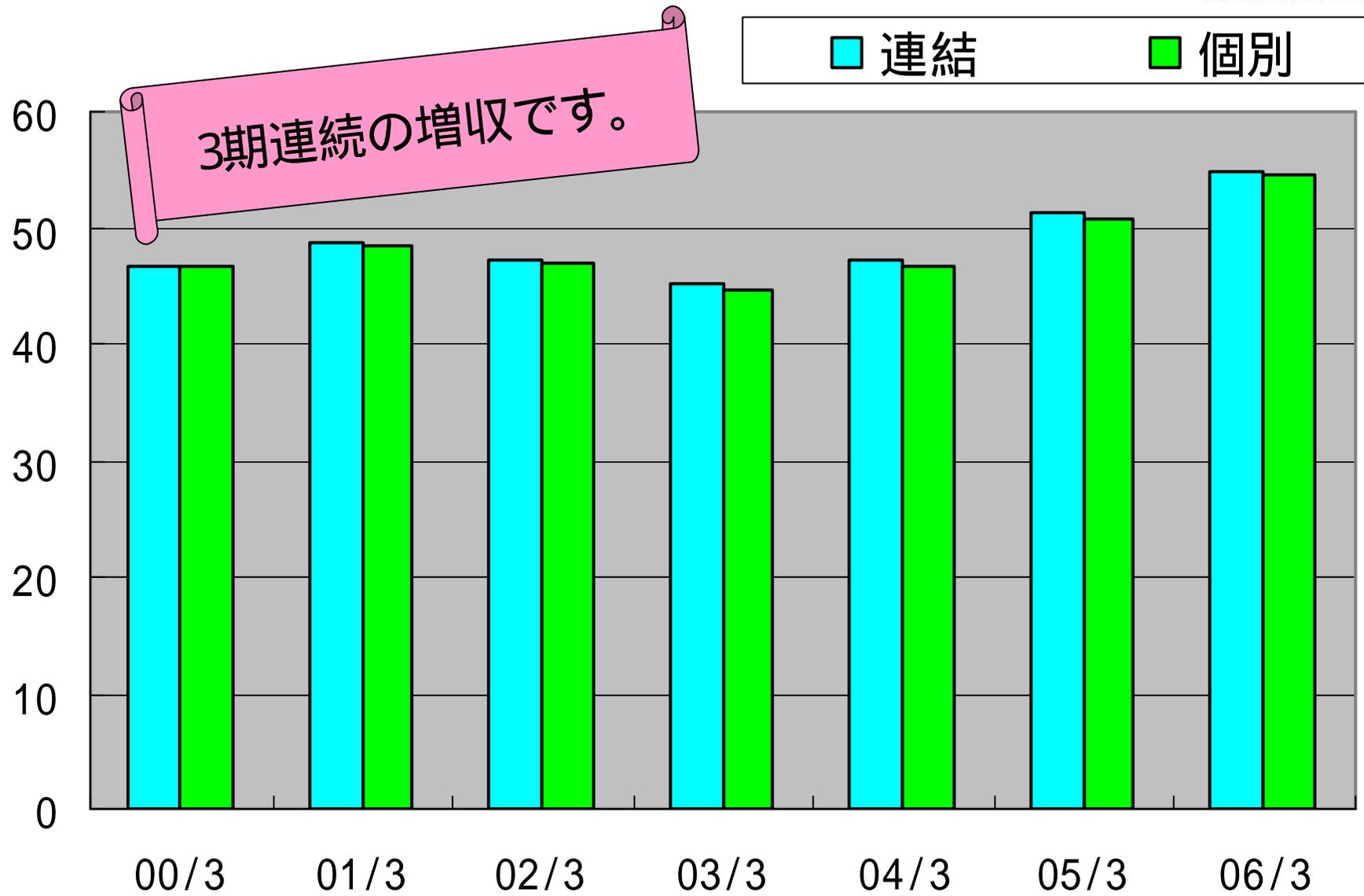
平成18年3月期の連結損益計算書



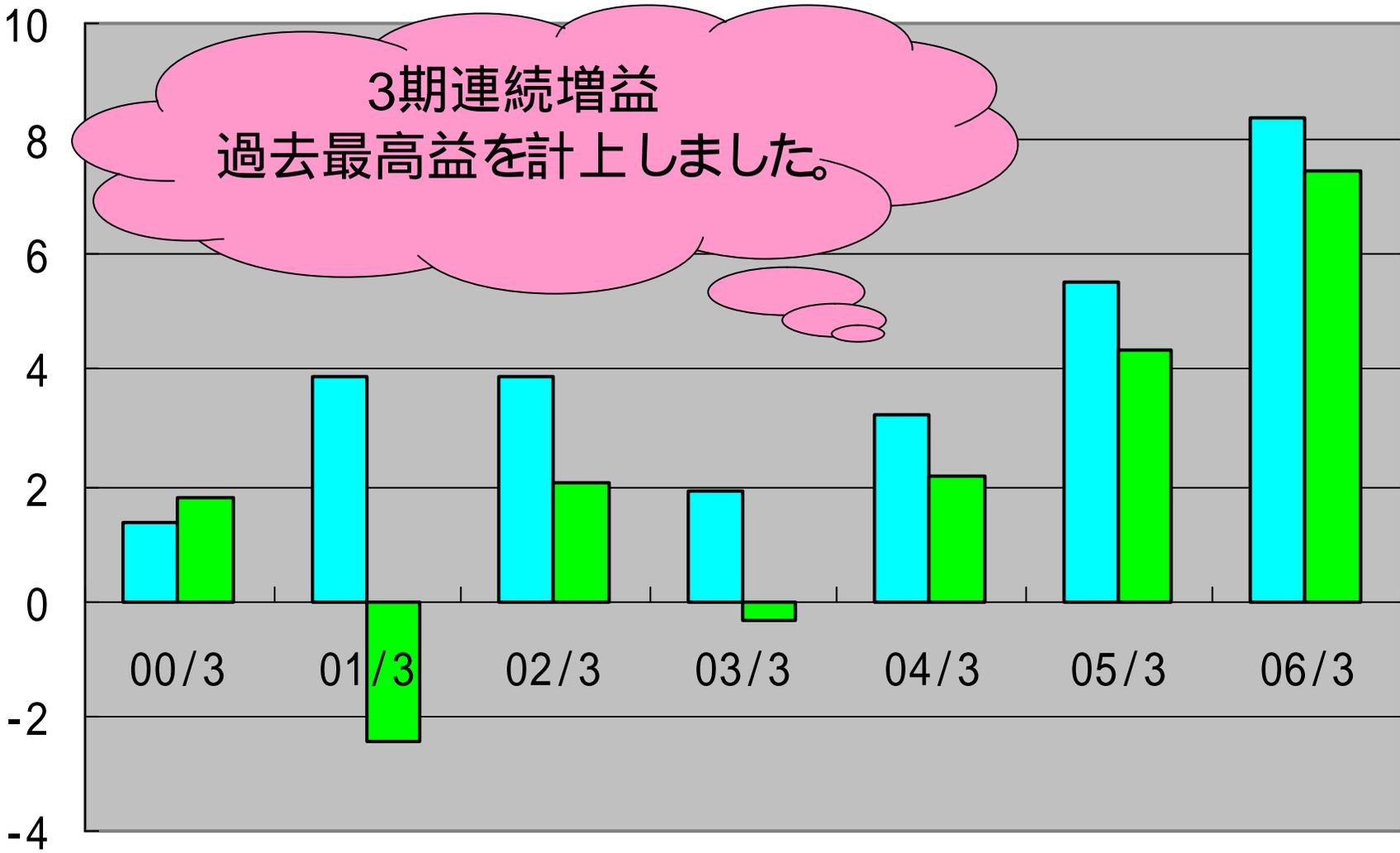
(単位:千円)

	前期	今期	増減額
売上高	5,131,412	5,482,462	351,050
売上原価	2,961,448	3,078,620	117,171
売上総利益	2,169,963	2,403,841	233,878
販売費及び一般管理費	1,786,433	1,802,933	16,500
営業利益	383,529	600,908	217,378
営業外収益合計	207,873	269,978	62,105
営業外費用合計	39,849	30,448	9,401
経常利益	551,553	840,439	288,886
特別利益合計	1,038	37,695	36,657
特別損失合計	14,026	4,964	9,061
税金等調整前当期純利益	538,564	873,170	334,605
法人税、住民税及び事業税	165,000	288,500	123,500
法人税等調整額	616	7,283	6,667
当期純利益	372,948	577,387	204,438

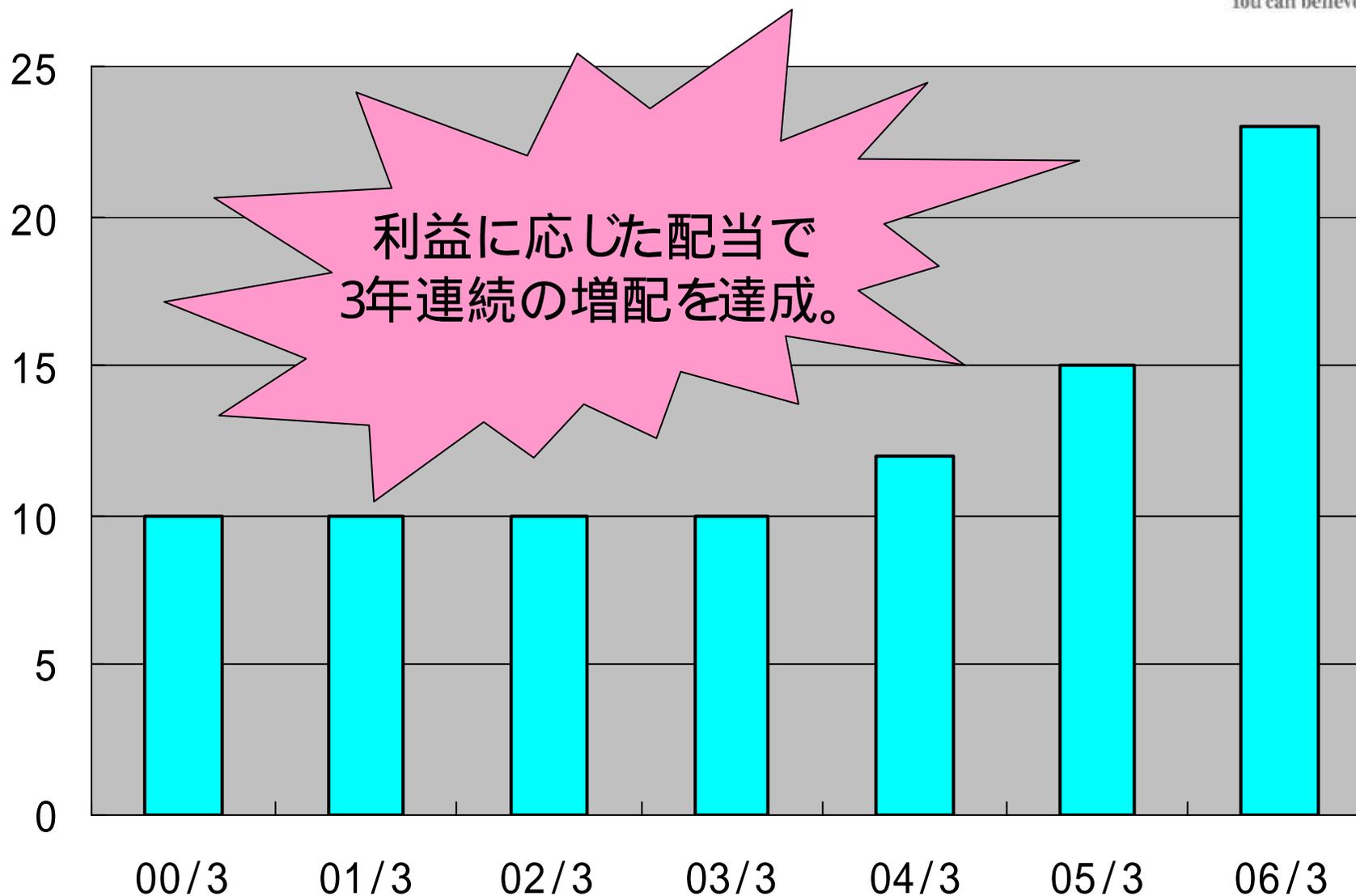
売上高の推移



経常利益の推移



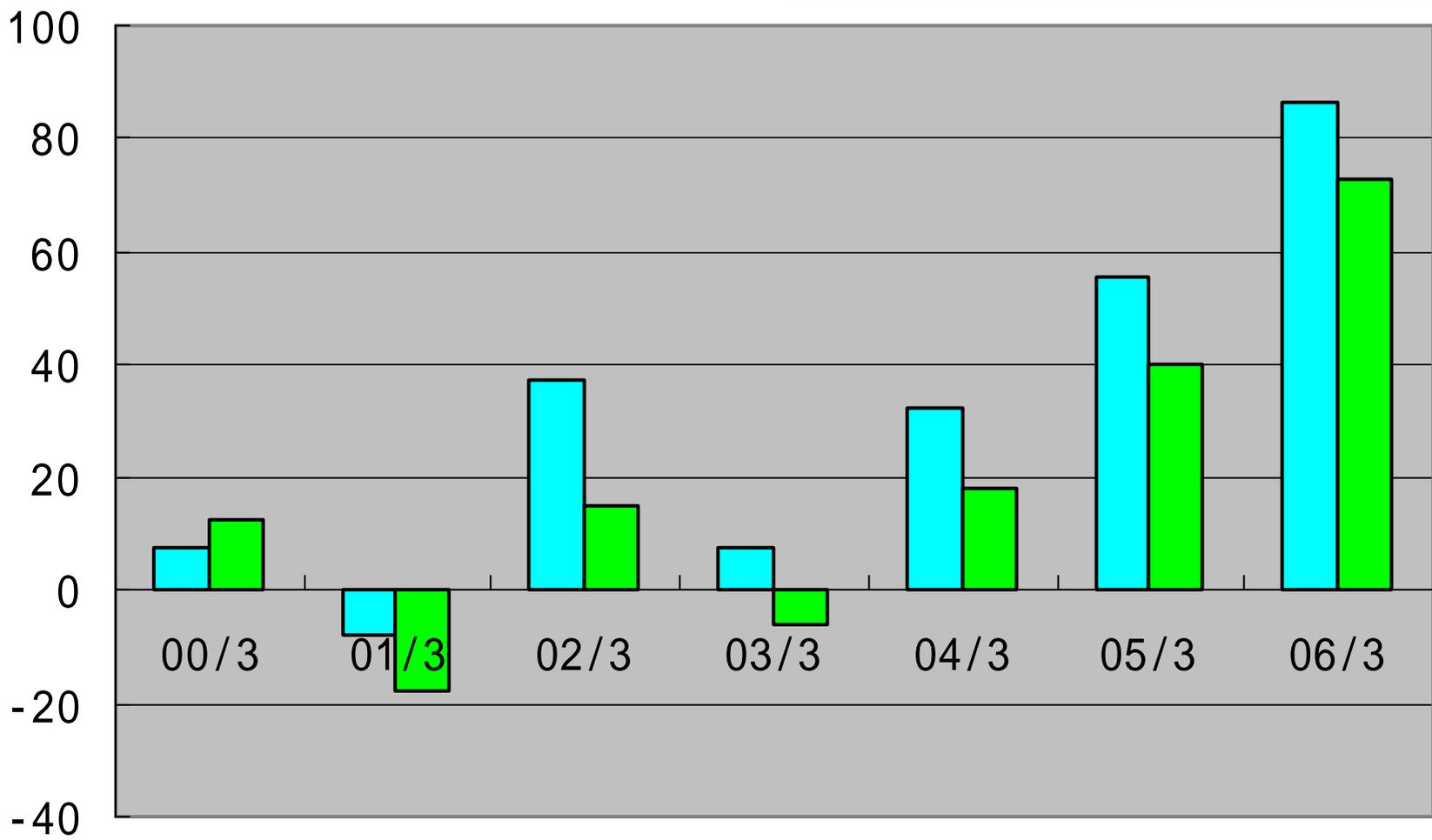
1株当たり配当の推移



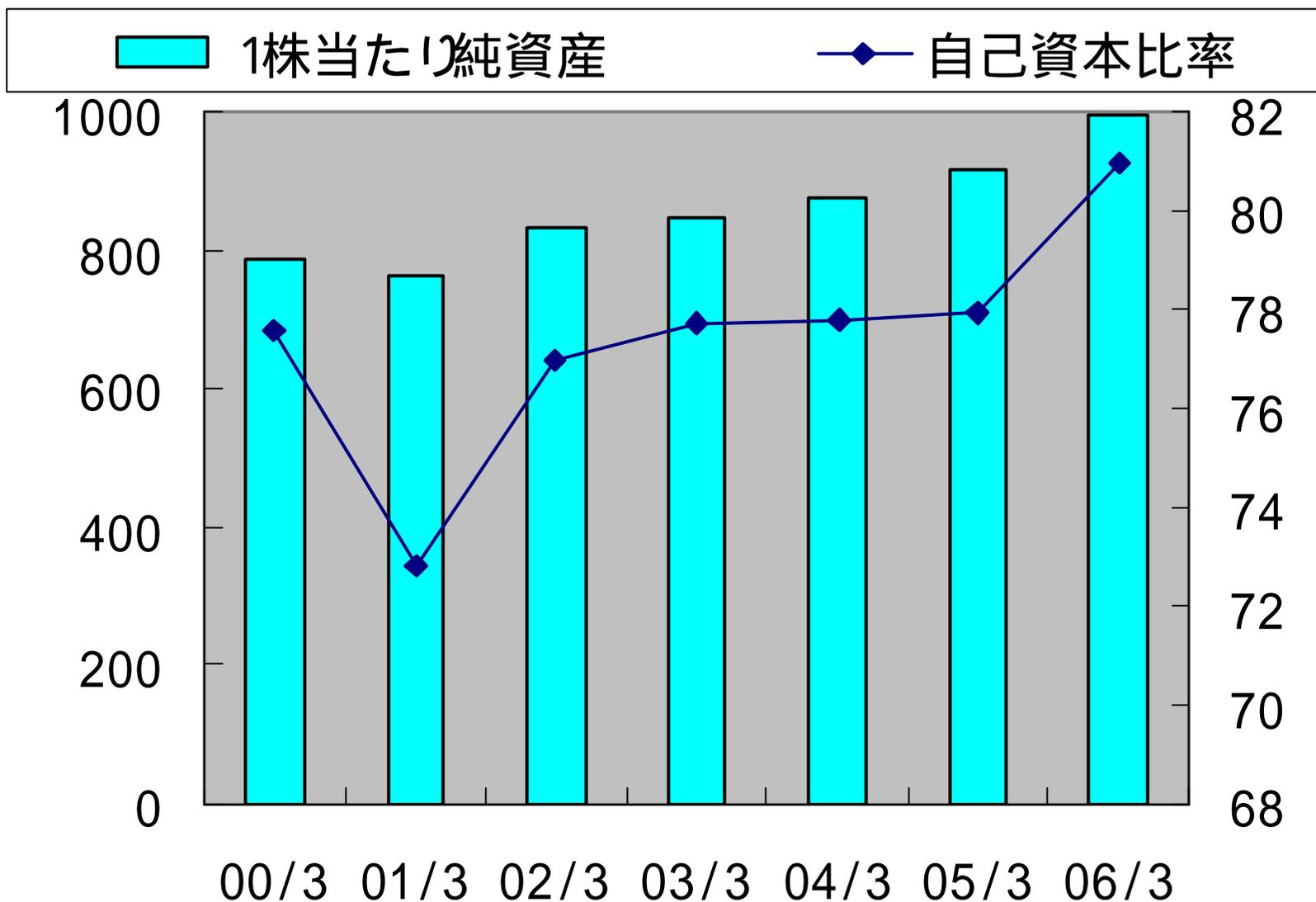
1株当たりの当期純利益の推移



■ 連結 ■ 個別



1株当たり純資産 (連結) の推移



決算期後に子会社を取得



当社は平成18年4月3日に、以下のとおりカワキ計測工業株式会社の発行済株式の全てを取得し、発行済株式の全てを取得し、連結子法人等といたしました。

名 称	カワキ計測工業株式会社
所 在 地	兵庫県神戸市
資 本 の 額	10,000千円
事 業 内 容	計測器の設計製造ならびに販売
取得株式数	20,000株
取 得 価 額	242,000千円
持 分 比 率	100.0%



平成19年3月期 業績予想

平成19年3月期業績予想



(単位:千円)

	今期	来期予想	増減額
売上高	5,482,462	6,160,000	677,538
営業利益	600,908	630,000	29,092
経常利益	840,439	850,000	9,561
税金等調整前当期純利益	873,170	850,000	23,170
当期純利益	577,387	540,000	37,387

平成19年3月期業績予想の概要



連結売上高 :以下のとおり増収を予想しています。

民間設備投資の好調持続による売上増加
子会社取得による売上増加
価格改定による単価上昇

経常利益 :売上高は増加しますが、以下のとおり今期比微増を予想しています。

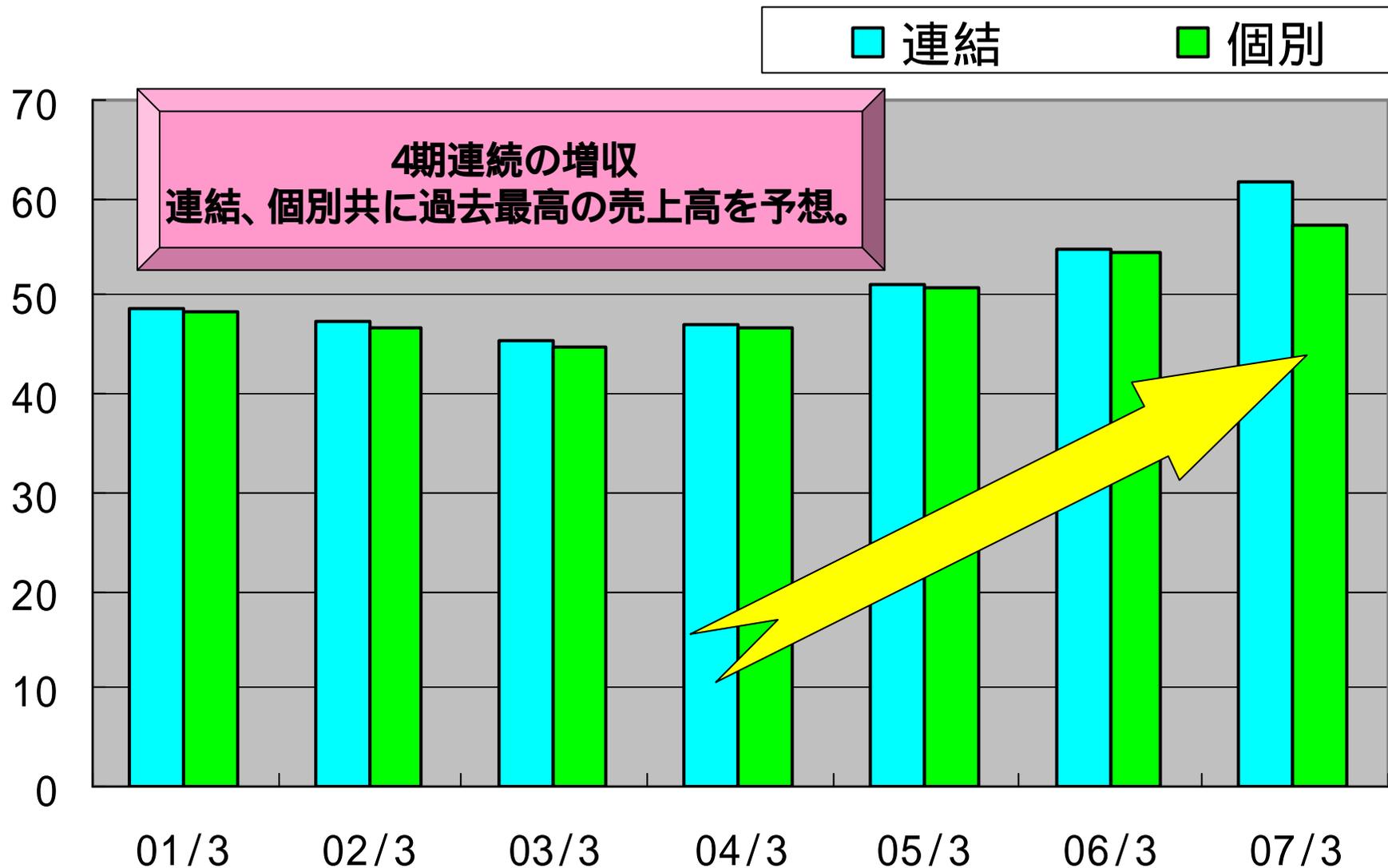
素材価格の急激な高騰

取得した子会社の投資差額 (のれん) の償却額計上 (5年償却を予定)

当期純利益 :上記に加え、以下のとおり今期比微減を予想しています。

今期は特別利益 (貸倒引当金戻入益) を計上しましたが、来期は予定していません。

売上高の推移



中期 7年計画について



2005年4月に中長期7年計画を策定いたしました。
これは当社が今後も長期的で持続的な成長を続けられるよう目指すものであります。

この計画の骨子としましては次の4点を基本としております。

- 1.新製品開発
- 2.市場占有率の向上
- 3.海外市場での販路拡大
- 4.社内教育体制の強化



企業理念

フェア ビジネス

Y's a Business of Fair Endeavor